

# 安全データシート

整理番号 : RT181GJ01

作成日 : 2022/02/28

改訂日 : 2025/11/14

版 : 3

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Revoria Press PC1120 / PC1120S / PC2120 / PC2120S Series  
トナー(圧着)

供給者の会社名称、住所及び電話番号 : 富士フイルムビジネスソリューション株式会社  
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3  
046-237-1686

供給者のファクシミリ番号又は e-mail アドレス : [e-mail アドレス] dge-fb-msds-admin@fujifilm.com

担当部門 : 品質保証部 環境商品安全統括 G

### 化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 電子写真用トナー

使用上の制限 : 推奨用途以外の使用は推奨しない

## 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

本製品は、GHS 分類基準上、危険有害性のある混合物には分類されない。

## 3. 組成、成分情報

成分及び濃度又は濃度範囲 : 営業上の秘密に該当する通知対象物質の含有量は、10% 刻みの記載とする。(基発 0424 第 2 号に基づく)

化学名又は一般名	含有量(重量%)	官報公示整理番号	CAS Registry No.
		(化審法/安衛法)	
スチレン/アクリル樹脂	< 90%	非開示	非開示
酸化鉄(フェライトとして)	< 10%	1-357	1309-37-1
酸化マンガン(フェライトとして)	3.4%	1-475	1344-43-0
シリカ(非晶質)	< 10%	1-548	7631-86-9
二酸化チタン	< 1%	1-558	13463-67-7

## 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のところへ移す。多量の水でよくうがいをする。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼を使って水でよく洗い流す。
- 眼に入った場合 : 15分以上多量の水で洗い流した後、医師の診察を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲ませる。医師の診察を受ける。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 噴霧水、泡、粉末消火薬剤。ただし、機械内で燃焼した際には、電気製品における火災と同様の方法で消火する。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 吸入はできるかぎり避ける。大量にこぼした場合は、必ず弊社のカスタマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。
- 環境に対する注意事項 : 下水道や河川への漏出を防ぐ。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 周囲に火種がないことを確認する。  
少量の場合はほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布等で拭き取る。大量にこぼした場合は、必ず弊社のカスタマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。  
こぼれた製品は電気掃除機で吸い取らないこと。(掃除機を用いると微粒子が掃除機内部に充満し、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがある)

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。
- 安全取扱い注意事項 : 火中に絶対に投じない。カートリッジをこわしたり、分解したりしない
- 接触回避 : 特になし

### 保管

- 安全な保管条件 : 直射日光を避け、乾燥した換気のよいところに、低温で保管する。子供の手の届くところに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : 弊社の容器包装材料を使用すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 許容濃度等 : 日本産業衛生学会 電子写真用現像剤 8mg/m<sup>3</sup> (総粉塵)  
(第3種粉塵) 2mg/m<sup>3</sup> (吸入性粉塵)

		酸化鉄(第2種粉塵)	4mg/m <sup>3</sup> (総粉塵) 1mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉塵)
		酸化マンガン	0.1mg/m <sup>3</sup> (総粉塵) 0.02mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉塵)
		二酸化チタン	0.3mg/m <sup>3</sup> (二酸化チタン ナノ粒子)
管理濃度	: ACGIH	粒子状物質(総粉塵/ 吸入性粉塵)	ACGIHの最新版の許容濃度 を参照
濃度基準値	: 厚生労働省	酸化マンガン	0.05mg/m <sup>3</sup> (Mn)
設備対策	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。	データなし	データなし
保護具	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。		
呼吸用保護具	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。		
手の保護具	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。		
眼、顔面の保護具	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。		
皮膚及び身体の保護具	: 弊社指定機器で通常取り扱う場合は必要なし。		

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 粉体
色	: 無色
臭い	: 微かなプラスチック臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 適用外
可燃性	: 15項参照
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: 適用外
自然発火点	: 発火性なし
分解温度	: データなし
pH	: 適用外
動粘性率	: 適用外
溶解度	: 不溶(水)
n-オクタノール/水分配係数(log)	: 適用外
蒸気圧	: 適用外
密度及び/又は相対密度	: 適用外
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: <12µm(トナーとして)
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 安定
化学的安全性	: 安定
危険有害反応可能性	: 可能性なし
避けるべき条件	: 特になし
混触危険物質	: 特になし
危険有害な分解生成物	: 情報なし

## 11. 有害性情報

以下のデータは、本製品の試験結果、もしくは類似物の試験結果からの予測である。

### 急性毒性 (50%致死量)

経口→LD50(ラット)	: >2000 mg/kg (GHS 区分に該当しない)
経皮→LD50	: データなし
皮膚刺激性(ラビット)	: 刺激性なし
皮膚腐食性	: 腐食性なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 (ラビット)	: 刺激性なし(印字成分)
呼吸器感作性又は皮膚感作性 (マウスまたはモルモット)	: 皮膚感作性なし
生殖細胞変異原性	: AMES 試験 陰性
発がん性	: 二酸化チタンは IARC の発がん性分類で、グループ 2B に分類される。動物実験では、ラットのみ肺腫瘍が認められた。これは、ラットの肺クリアランスメカニズムの過負荷(オーバーロード現象)によるもので、本製品の通常使用時にはあり得ないと推察される。呼吸器の疾病と二酸化チタンの作業暴露との関係は、これまでの疫学調査で認められなかった。なお、二酸化チタン以外の構成成分は発がん物質(文献 1)に該当しない。
生殖毒性	: 生殖毒性及び発生毒性物質(文献 2)を含有せず。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データなし

## 12. 環境影響情報

以下のデータは、本製品の試験結果、もしくは類似物の試験結果からの予測である。

### 生態毒性

急性毒性	魚類 96 時間 LC50	: >500 mg/L (GHS 区分に該当しない) (印字成分)
	(ヒメダカ)	

ミジンコ類 48 時間 EC50 : >100 mg/L (GHS 区分に該当しない) (印字成分)  
(オオミジンコ)

藻類 72 時間 EC50 : >100 mg/L (GHS 区分に該当しない) (印字成分)  
(ムレミカヅキモ)

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

他の有害影響 : データなし

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報：  
適切な処理が必要なので、必ず弊社のカスタマーコンタクトセンター、または販売店に渡すこと。

### 14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 : 非該当

国内規制がある場合の規制情報 : 非該当

### 15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化審法 : 非該当

労働安全衛生法 : 特定化学物質第 2 類物質、管理第 2 類物質(特定化学物質障害  
予防規則第 2 条第 1 項第 2, 5 号)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 5 7 条第 1 項)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 5 7 条の 2 第 1 項)

カーボンブラック

酸化鉄

マンガン及びその無機化合物

酸化チタン( I V )

銅及びその化合物

固形パラフィン

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 指定可燃物 (ただし、合成樹脂類 : 3000kg 以上)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1 )  
マンガン及びその化合物 (政令番号 : 412) マンガンとして(2.7%)

## 16. その他の情報

本製品安全データシートは現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、構成成分やデータ・評価内容を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取扱いには十分ご注意ください。また、内容を弊社の許可なく一方的に改定・使用され、何らかの事故が発生した場合は、弊社はその責任を負いかねますのでご了承ください。

CAS Registry Number(R) is a Registered Trademark of the American Chemical Society.

### 引用文献

- (文献 1) : ・ IARC Monographs on the Evaluation Carcinogenic Risks to Humans (WHO.IARC:国際癌研究機関)  
・ National Toxicology Program(NTP) Report on Carcinogens (NTP:米国・国家毒性プログラム)  
・ TLVs and BEIs (ACGIH:米国・政府産業衛生専門家会議)  
・ 物質及び混合物の分類・表示・包装、及び指令 67/548/EECと 1999/45/ECを改正・廃止、また規則 (EC)No1907/2006を改正することに関する規則(EC)No1272/2008(CLP 規則)  
・ 産業衛生学雑誌(日本産業衛生学会)
- (文献 2) : ・ 物質及び混合物の分類・表示・包装、及び指令 67/548/EECと 1999/45/ECを改正・廃止、また規則 (EC)No1907/2006を改正することに関する規則(EC)No1272/2008(CLP 規則)
- (文献 3) : ・ Pulmonary Response to Toner upon Chronic Inhalation Exposure in Rats  
H.Muhle et.al Fundamental and Applied Toxicology 17.280-299(1991)  
・ Lung Clearance and Retention of Toner, Utilizing a Tracer Technique, during Chronic Inhalation Exposure in Rats  
B.Bellmann Fundamental and Applied Toxicology 17.300-313(1991)